

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第4回朝霞第五中学校学校運営協議会	
開催日時	令和8年2月6日（金）14時00分から15時00分まで	
開催場所	朝霞市立朝霞第五中学校 学校図書館	
出席者の職・氏名	委員9人（鈴木会長、要害副会長、片村委員、庄司委員、森泉委員、渋谷委員、金子委員、松本委員、鈴木校長） 事務局2人（相澤教頭、筒井教諭）	
欠席者の職・氏名	なし	
議題	1. 学校評価結果の報告、分析 2. 教職員の働き方改革と部活動の地域移行	
会議資料	1. 次第 2. 学校評価（保護者、生徒） 3. 学校評価（教職員）	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
会議録の確認方法 校長 による確認		
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項	特になし	

1. 開会・校長挨拶・現況報告

報告者：鈴木校長

【3年生の進路状況】

- 私立高校入試：1月22日から開始。第一志望を私立に見据えていた生徒は無事に合格し、4月からの進路が決定した。
- 公立高校入試：大多数の生徒はこれからが本番である。現在は願書作成等の事務手続が完了した段階。
- 現状の様子：まだ先が見えない不安な時期（正念場）だが、夢を持って第一志望に合格したいという強い思いで学習に励んでいる。学年末テストの日程も近づいており、卒業式（3月）までの残り少ない中学校生活を一日一日大切に過ごしている。

【1・2年生の活動】

- 体験学習：2年生は「スキー林間」、1年生は「職場体験学習」を実施。
- 成果：学校を離れ、現地に足を運び体を使って活動したことで、疲れは見たものの「自信」を得て帰校した。進級を控え、中学校生活の折り返し地点（2年生）を意識させる指導を行っていく。

2. 学校評価結果の報告・分析

報告者：鈴木校長

今年度の学校評価アンケート（4段階評価：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を肯定的回答とする）の集計結果に基づき詳細な分析報告が行われた。

（1）保護者・生徒アンケート結果

- 全体傾向：多くの項目で肯定的回答が9割を超え、学校運営への理解と評価を得ている。
- 学力・授業（項目3・4）：
 - 「授業がわかりやすい」等の項目で、保護者評価が87%、生徒評価が92%となった。保護者評価が80%台後半となったのは、学校への「期待」や「叱咤激励」の表れと捉えている。
 - ICT活用：タブレット（iPad）活用は浸透しているが、ICTに頼ることへのリスクや不足感を懸念する意見も一部見られる。
- 運動への取り組み（項目7）：
 - 課題：今回初めて保護者・生徒ともに肯定的回答が9割を切った。
 - 分析：生徒自身が「自信がない」と感じている傾向がある。昼休みの過ごし方や部活動に関するコメントも寄せられている。
- 地域連携（項目10）：
 - ギャップの存在：保護者の評価は高いが、生徒の肯定的回答は約6割と低い。
 - 実態との乖離：実際には「吹奏楽部のイベント」「ふれあいマルシェ」「朝霞ロードレース」「三小ふれあい祭り」などに参加しているが、生徒自身の意識の中で「地域活動に参加している」という認識（実感）とリンクしていないのが要因と考えられる。

（2）教職員アンケート結果（自己評価）

- 全体傾向：「学校教育目標への組織的取り組み」等は9割超え。限られた人数の中で、教職員が自律的に協働できている。
- 安全・安心（項目2）：肯定評価88%。施設面や運営面の課題について、職員間で率直な意見が出ており、来年度の校務分掌や組織作りで改善を図る。
- 体力向上指導（項目7・8）：生徒の運動意欲低下（7割台）を認識している一方、学校として

の体力向上施策（指導）には9割以上の教員が取り組んでいると回答。

- 地域連携（項目9）：
 - 変化： かつてのような「家庭訪問」や「教員が地域の祭りに顔を出す」といった活動は、業務見直しや時代の変化（個人情報保護等）により減少しており、関係構築の難しさを感じている。
 - 現状： 外部講師を招くなど、形を変えて連携を模索している。

3. 質疑応答および協議

① 学習指導について（数学の「どとう」）

- 質問（渋谷委員）： 保護者コメントにある「数学のどとう」とは何か。
- 回答（筒井教諭）：
 - 数学科の教員が自作している**習熟度別プリント（ドリル）**の名称。
 - 仕組み： 「基礎基本」「標準」「ハイレベル（応用）」の3～4段階のレベル分けがされている。
 - 活用法： 宿題として一律に出すこともあるが、数学教室の棚に常備されており、生徒が自分のレベルに合わせて選び、基礎固めや応用力強化のために自主的に取り組めるようになっている。

② 地域活動への参加について

- 意見（庄司委員）：
 - ミスマッチ： 地域の祭り（明日開催の餅つきや節分等）は、小学生や幼児連れが中心で、中学生は参加しにくい雰囲気がある。
 - 距離の壁： 市の大会やイベントに参加したくても、会場が遠く、保護者の送迎が必要になるなど物理的なハードルがある。「地域性」による難しさがあるのではないか。

③ 体力向上と昼休みの遊び

- 意見（庄司委員）： 昼休みに「楽しい遊び」を提案すれば、外に出る生徒が増え、体力向上につながるのではないか。昔は鬼ごっこだけで十分だったが。
- 回答（鈴木校長）：
 - 実態： ボールの貸し出し等を行っている。
 - データとの乖離： 新体力テストの結果を見ると、実は平均を超えており、運動能力自体は高い生徒が多い。しかし、日常的に運動する「機会」や「時間」が限られているのが現状。

④ 不登校・生徒の居場所について

- 質問（委員）： 授業参観の際、空席が目立った。不登校の実態はどうか。
- 回答（鈴木校長）：
 - 数値： 全校生徒319名中、12月末時点で約25名が「休みがち（不登校傾向）」である。
 - 傾向： 中学1年生の5月連休明け頃から欠席が増えるケースなどがあるが、理由は「明確ないじめ」などではなく、**「漠然としている（なんとなく行けない）」**ケースが多い。これは本校に限らず、小学校高学年からの傾向でもある。
- 補足（松本校長）： 三小でも同様に増えている。理由が漠然としているため、教員も対応の糸口が見つけにくい。
- 意見（要害委員）： 無理に学校へ戻すことだけが正解ではない。適応指導教室やフリースクールなど、「学校以外のどこか」とつながっていることが重要。孤立が一番のリスク。
- 回答（鈴木校長）： 同感である。「今、どこにつながっているか」を把握することを最優先に

している。保護者も仕事中に子供の安否を気にするなど精神的負担が大きいため、親子への支援・声かけを継続したい。

4. 教職員の働き方改革と部活動の地域移行

提起者：鈴木校長 教職員の時間外労働削減（現在の月 45 時間規制から、令和 10 年には月 30 時間以内を目指す）に伴い、部活動の地域移行が不可避である件について議論が行われた。

【朝霞市の方針】

- スケジュール：令和 8・9 年度を「移行期間」、**令和 10 年度を「完全地域移行」**とする基本方針が決まった。
- 懸念：方針は決まったが、「誰が受け皿を作るのか」「指導者は誰か」という具体策が白紙状態である。

【主な議論：地域移行の現実的な壁】

- 指導方針の不一致（金子委員）：
 - 自身も川口市等でバスケット指導に関わっているが、クラブチーム化すると**「勝利至上主義」なのか「楽しむ（レクリエーション）目的」なのか**が曖昧になる。
 - 学校部活であれば教育的配慮ができるが、外部クラブでは目的が分かれ、生徒が迷う可能性がある。
- 保護者負担の増大（金子委員・鈴木校長）：
 - 現状：これまでは練習試合の引率、会場手配、トラブル対応を全て顧問（教員）が行っていた。
 - 移行後：地域クラブとなれば、体育館の予約（抽選）、送迎の車出し、集金管理、鍵の開け閉め等を保護者が主体となって行う必要が出てくる。役員の負担が重く、保護者の理解が得られるか（「険しい道のり」との発言あり）。
- 「少子化対策」と「働き方改革」のねじれ（松本校長・委員）：
 - 本来の目的：全国的な少子化で「野球部が 9 人揃わない」等の地域で、学校の垣根を超えてチームを作る（部活動を持続可能にする）ことが地域移行の本来のスタート地点だった。
 - 都市部の矛盾：朝霞市など埼玉県南部はまだ子供が多く、単独校で部活が成立している（50～60 人の部員がいる部もある）。そのため、「教員の働き方改革」という理由だけで地域移行を進めようとする、現場の実態と合わず、納得感を得にくい状況（ねじれ）が生じている。

【結論】一足飛びの解決は難しいため、サッカー部のような合同チーム化など、できるところから少しずつ模索していく他ない。

5. 事務連絡

- 学校評価シートの提出：本日記入、または次回持参にて提出を依頼。
- 次回日程：第五回 学校運営協議会
 - 日時：3月17日（火）14:00～
 - 内容：今年度最後の会議となる。

閉会（相澤教頭）